

## 当院における移動手段と Berg Balance Scale との関連性について

医療法人凌雲会 稲次整形外科病院 リハビリテーション部  
○篠宮史枝 (PT)、土井大介、高岡光弘、稲次正敬、稲次美樹子、稲次圭  
独立行政法人 徳島大学病院  
高田信二郎

### 【はじめに】

対象者にとって、身体機能に最も適した移動手段を選択することは非常に重要である。特にバランス能力が低下した方の歩行時の転倒を防ぐ為には、その能力に応じた歩行補助具を使い分ける必要がある。バランス能力の評価方法である Berg Balance Scale (以下 BBS) は、非常に高い信頼性が得られているため、臨床的に十分利用可能である。本研究では、BBS の点数が歩行補助具選択の手がかりになりうるのではないかと考え、移動手段と BBS との関連性を検討した。

### 【対象】

当院でリハビリテーションを受けている 82 名 (男性 37 名、女性 45 名、平均年齢 72.7 歳)。  
中枢神経系疾患 47 名、整形外科的疾患 35 名。

### 【方法】

転倒歴のない対象者の移動手段を調査した。今回は移動手段を点数化し、得点が高い程、移動能力が高いとした (独歩:8 点～車椅子:1 点)。

BBS は、日常生活動作と関連性の高い 14 項目を、項目毎に 0～4 点に点数化した。各測定項目において、移動手段との相関について比較検討した。

移動手段と BBS の対応は、各移動手段の BBS 合計得点の平均値を求めた。

### 【結果と考察】

BBS の測定項目および合計得点と移動手段について、BBS の測定項目では、「座位保持」以外の項目において中等度～強い相関が認められた ( $r=0.62\sim0.78$ )。また、BBS の合計得点が高いほど移動手段能力が高く、強い正の相関が認められた ( $r=0.84$ )。これらより BBS が移動手段の指標として利用できる可能性が示唆された。当院では移動の際の補助具使用を概ね今回振り分けた番号順に変更していき、独歩を目指している。この過程において平均値を大きく逸脱する群 (特に BBS 得点が高値であるが移動手段の点数が低いもの) には補助具の変更も検討する余地があると考えられる。しかし今回症例数の少ない項目もあり、臨床応用としての具体性には不十分の結果となり、今後の課題となった。